



学校だより

12月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～

子ども同士のかかわりで育つ力

校長 西山 久美子

西門から見える富士山がこの季節は特に美しい！朝の澄んだ空気の向こうに見える凜とした姿の富士、日没前後のオレンジ色に染まる空の中の幻想的な富士のシルエット、今日も星の子達が幸せでありますようにと思わず願う瞬間です。

さて、11月上旬に3年ぶりのなかよし遠足を実施しました。全校児童が、ペア学年と電車を使って子ども自然公園に行くという、上星川小で長く受け継がれてきた行事です。ペア学年は、4年生5年生6年生が、それぞれ2年生3年生1年生とペアになり小グループを作ります。私は今年度、すべてのペア遠足に付き添うことができ、改めて上星川小の子ども達を誇りに思った3日間でした。

3年ぶりの行事なので、4～6年生は、なかよし遠足で上の学年としてリードした経験がない中での活動です。しかし、どんなことが相手のためになるのだろうと想像力を働かせ、一生懸命に下学年の子に向き合っていました。公園までの移動の際は、交通安全を考えて歩き方や並び方に気を付け、公園では、グループの友達が楽しく過ごせているか、疲れていないか、トイレは大丈夫かなど終始気を配っていました。ペア活動では同学年での遠足以上に「相手のために」を考える必要が出てきます。「大丈夫？」「もう少しで着くからね。」「がんばったね。」「(座席に)座っていいよ。」こんな言葉が、どのペア学年でもたくさん聞こえてきたのです。そこには、他者を思いやる気持ち、相手の思いを想像しようとする姿勢が表れていました。カッコいい星の子の先輩達。先輩達の頼りになる姿を見た1年生から3年生の子ども達は、高学年への憧れの思いをもち、いつかは自分もこんなふうに行動するのだという目標にもなったことでしょう。こうやってバトンは受け継がれていくのだなあとうれしくなる光景でした。

子どもは、子ども同士のかかわりの中で大きく成長します。上星川小では、ペア学年活動はもちろん、いろいろな形で他学年との交流を大切にしています。誰かのために自分の力を注ぐ、相手が喜んでくれることが自分の喜びにつながる、友達は今どんな気持ちでいるのだろうと考える…これらは、多くの人とのかかわりの中だからこそ育てることができる力だと考えます。そして、その力を育てるため、あいさつができること、相手の話を聞くこと、自分の思いを伝えること、ルールを守ることなど、集団生活の中で身に付けるべきことをこれからも繰り返し子ども達に伝えていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様には、子ども同士のかかわりを通して、しなやかにそしてたくましく成長する星の子達を今後も温かく見守っていただきますようお願いいたします。